

履 修 要 項

国 文 科
英 文 科
放 射 線 科

昭 和 61 年 度

駒 澤 短 期 大 学

学 年 暦

前 期

- 4月8日(火) 入学式(学部・短大)
- 7日(月) } 新入生オリエンテーション
- 11日(金) }
- 9日(水) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 10日(木) }
- 9日(水) } 在校生身分登録(学部・短大)
- 19日(土) }
- 10日(木) } 体育実技Ⅱ種目選択届受付
(学部2年次生)
- 11日(金) }
- 12日(土) 前期授業開始
- 12日(土) } 成績質疑応答
- 19日(土) }
- 21日(月) } 履修届受付(学部・短大)
(学部により受付日が異なる)
- 24日(木) }
- 5月13日(火) } 春季健康診断
(2・3・4年次生対象)
- 22日(木) }
- 26日(月) } 卒業論文論題受付
(締切日は正午まで)
- 6月10日(火) }
- 7月5日(土) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 11日(金) }
- 7月10日(木) } 中間試験(授業平常通り)
- 16日(水) }
- 16日(水) 前期授業最終日
- 17日(木) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 18日(金) }
- 19日(土) 夏季休暇第1日
- 19日(土) } 体育実技Ⅱ集中授業・シーズンコース
(テニスA)
(学部2年次生)
- 23日(水) }
- 24日(木) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(テニスB)
(学部2年次生)
- 28日(月) }

後 期

- 9月8日(月) } 補講期間
- 13日(土) }
- 12日(金) 前期定期試験欠試届(追試申込)
受付締切

- 16日(火) 後期授業開始
- 17日(水) }
- 18日(木) } 前期定期試験成績発表及び
再試験申込受付
- 25日(木) }
- 30日(火) } 前期追・再試験(授業平常通り)
- 10月1日(水) }
- 3日(金) } 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(金) }
- 4日(土) } 専攻コース指定届受付
(歴史・社会学科1年次生)
- 13日(月) }
- 14日(火) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(水) } 第104回開校記念日(全校休業)
- 11月12日(水) }
- 14日(金) } 転部科試験願書受付
- 28日(金) } 転部科試験
- 12月4日(木) }
- 12日(金) } 編入学試験願書受付
- 10日(水) } 卒業論文受付締切(正午)
- 19日(金) } 冬季休暇第1日
- 19日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 23日(火) }
- 22日(月) 編入学試験

昭和62年

- 1月8日(木) 後期授業再開
- 14日(水) 後期授業最終日
- 16日(金) }
- 27日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 28日(水) }
- 2月5日(木) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 6日(金) } 卒業論文口頭試問
- 7日(土) } 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 16日(月) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(スキーA・B)(学部2年次生)
- 20日(金) }
- 19日(木) } 成績発表及び追・再試験申込受付
(学部4年次生・短大生)
- 20日(金) }
- 25日(水) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
追試験(学部1・2・3年次生)
- 3月3日(火) }
- 19日(木) } 卒業生名簿発表
- 25日(水) } 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数	(3)
III	授業科目の履修方法	(3)
1.	一般教育科目の履修方法	(3)
2.	外国語科目の履修方法	(5)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	専門教育科目の履修方法	(8)
5.	随意科目の履修方法	(8)
6.	再履修科目の履修方法	(9)
7.	授業科目一覧表	(10)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)	(17)
1.	履修科目の登録	(17)
2.	履修届記入上の注意	(18)
V	試験および成績評価	(19)
1.	定期試験	(19)
2.	中間試験	(19)
3.	追・再試験	(19)
4.	受験心得	(19)
5.	成績評価・単位認定	(20)
6.	試験時間	(20)
VI	進級について	(21)
VII	クラス制およびクラス主任	(22)
VIII	教職課程・資格講座(国文科・英文科)	(22)
IX	診療放射線技師国家試験受験資格の取得について	(23)
X	事務取扱いについて	(23)
XI	届書・願書について	(25)
XII	各種証明書取扱い窓口	(26)
	試験実施規程(抜萃)・進級規程	(27)
	講義内容	(31)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「短期大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は国文科・英文科が2カ年以上（4カ年をこえてはならない）、放射線科が3カ年以上（5カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
5. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
 - (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
 - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
 - (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

科	所要	区分	一般教育科目			外国語 科目	保健体育 科目		専門教育 科目		計
			人文 分野	社会 分野	自然 分野		講義	実技	必修 科目	選択 科目	
国 文	単位数		6	4	2	4	2	1	28	20	67以上
	科目数		3	1~2	1	2	1	1	9		
英 文	単位数		6	4	2	6	2	1	32	14	67以上
	科目数		3	1~2	1	3	1	1	11		
放 射 線	単位数		4	2	4	4	2	1	82	6	105以上
	科目数		2	1	1~2	2	1	1	39		

Ⅲ 授業科目の履修方法

各科の学生は、それぞれの教育課程から次のように授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、「授業科目一覧表」(P. 10~P. 14)を参照のこと。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は特定の科目以外は1年次において所定の単位数・科目数を履修しなければならない。
- ロ. 国文科・英文科は人文分野「宗教学Ⅰ(1年次)」・「宗教学Ⅱ(2年次)」を必修、放射線科はいずれも1年次で必修とする。
- ハ. 放射線科の「宗教学Ⅰ」・「宗教学Ⅱ」の授業は金曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。
- ニ. 各科、一般教育科目の所要単位数・授業科目は次表のとおりである。

一般教育科目の卒業所要単位数

科	人文分野	社会分野	自然分野	計
国 文	6(3)	4(1~2)	2(1)	12(5~6)
英 文	6(3)	4(1~2)	2(1)	12(5~6)
放 射 線	4(2)	2(1)	4(1~2)	10(4~5)

(注意) () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目及び履修学年

科	科目名・単位数	人 文 分 野					社 会 分 野					自 然 分 野									
		宗 教 学 I	宗 教 学 II	哲 学	倫 理 学	文 学	歴 史 学	法 学 憲 法	社 会 学	文 化 人 類 学	法 学	心 理 学	一 般 数 学	一 般 物 理 学	一 般 化 学	一 般 生 物 学	生 物 学	地 学	心 理 学	情 報 科 学 概 論	家 庭 科 学
		2	2	2	2	2	2	4	2	2	2	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2
国	文	1 必	2 必	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年						1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	
英	文	1 必	2 必	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年						1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	
放	射 線	1 必	1 必		1 年				1 年		1 年	1 年	1 年	1 年	1 年						

(注意) イ. 法学憲法（日本国憲法2単位を含む）と一般数学は通年で、その他は半期の授業科目である。

ロ. 上記表の1必, 2必または1年と年次の指定されてある授業科目が本人の所属する科の関連科目である。

- (a) 1必……1年次生の必修科目
- (b) 2必……2年次生の必修科目
- (c) 1年……1年次生の履修科目（2年次生の履修可）

2. 外国語科目の履修方法

A. 国文科

- イ. 英語・ドイツ語・フランス語・中国語およびスペイン語のうち1カ国語（1年次2単位・2年次2単位）4単位を選択必修とする。
- ロ. 必修とした科目以外の外国語の履修を希望するものは1カ国語（1年次2単位・2年次2単位）4単位まで選択履修することができるが、この場合の単位は卒業に必要な単位に含めることができない。ただし、必修を英語以外の外国語にしたときは選択を英語とする。
- ハ. 1年次の7月に、2年次で履修する外国語の登録を必ずすること。

授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数
英 語 I	2	同一語を1年次I，2年次IIとし合計2科目4単位選択必修
英 語 II	2	
ド イ ツ 語 I	2	
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 I	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
中 国 語 I	2	
中 国 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

B. 英文科

59年度以降入学生適用

1年次の履修

4カ国語のうち英語Iと入学手続の際に選択した外国語Iの計2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 I	2	必修
ド イ ツ 語 I	2	入学手続の際に選択した外国語（1カ国語）を必修
フ ラ ン ス 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれか1カ国語1科目2単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 II	2	} うち1カ国語(1科目) 必修
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

(注意) 1年次履修の外国語(英語と他の1カ国語)の中から2年次に履修する外国語(第1外国語)を学生自身が選択し、1年次の7月に登録する。したがって、1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。

58年度以前入学生適用

イ. 英語(1年次IG・IR4単位, 2年次II2単位)3科目6単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 IG	2	} 1年次必修
英 語 IR	2	
英 語 II	2	2年次必修

ロ. ドイツ語, フランス語, 中国語およびスペイン語のうち1カ国語(1年次2単位, 2年次2単位)4単位まで選択履修することができるが, この場合の単位は卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考
ド イ ツ 語 I	2	} 同一語を1年次I, 2年次IIとし合計2科目4単位選択履修できる。
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 I	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
中 国 語 I	2	
中 国 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

C. 放射線科

1年次に英語2単位, ドイツ語2単位 計2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語	2	} 1年次2科目4単位必修
ド イ ツ 語	2	

※「英語」・「ドイツ語」の授業は金曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

3. 保健体育科目の履修方法

A. 国文科・英文科（1年次必修）

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は保健体育理論2単位、実技は体育実技を1単位、計3単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講義	保 健 体 育 理 論	2	} 2科目3単位必修
実技	体 育 実 技	1	

※「保健体育理論」は、従前の「保健理論・体育理論」を名称変更したものである。

※実技についての種目の説明は、最初の授業にて配布する「体育実技受講要領」を参照すること。

B. 放射線科（1年次必修）

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は保健理論を2単位、実技は体育実技を1単位、計3単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講義	保 健 理 論	2	} 2科目3単位必修
実技	体 育 実 技	1	

※「体育実技」の授業は玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

※実技についての種目の説明は、最初の授業にて配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は、必修科目と選択科目とに分かれ、次表による単位数・科目数を履修すること。また各年次で履修できる授業科目は「授業科目一覧表」(P. 10～P. 14)のとおりになっているので、履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。

専門教育科目の卒業所要単位数

科	必修科目	選択科目	計
国 文	28 (9)	20	48
英 文	32 (11)	14	46
放 射 線	82	6	88

() 内の数字は科目数

5. 随意科目の履修方法

随意科目は、2年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。
なお、日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 会 話 II	2		日 本 語 F	2	(初級・中級)
英 語 LL II	2				

6. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 必修となっている科目については同じ授業科目を再履修するか、または再試験で単位を補わなければならない。
- ハ. 再履修の科目は新履修科目と同時に届け出をすること。
- ニ. 放射線科の学生で外国語・宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお、体育実技を再履修する場合は、教務部⑨番窓口で相談すること。
- ホ. 1年次生は、再履修クラスを履修することはできない。

※国文演習Ⅰは、各科目とも先着30名で締切る。

なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て、「単位履修届」に捺印を受けること。

〔担任の先生に届出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。〕

(注意) 国文演習Ⅰ・国文演習Ⅱはそれぞれ(古典)と(近代)とに分れている。

一年次で国文演習Ⅰで(古典)を履修した者は、二年次においては国文演習Ⅱ(近代)を、また、一年次で国文演習Ⅰで(近代)を履修した者は、二年次においては国文演習Ⅱ(古典)を履修すること。

英 文 科

A. 59年度以降入学生適用

年次・科目 ・単位		1 年 次		2 年 次		履 修 方 法	卒業要件	
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		計	合計 単位
一 般 教 育 科 目	人文分野	宗 教 学 I 哲 文 倫 理 史 学 学 学 学 学	2 2 2 2 2	宗 教 学 II	2	「宗教学 I・宗教学 II」の 2 科目を含めて 3 科目 6 単位を選択必修	12	卒業に 必要 な 単 位 数 67 以上
	社会分野	法 学 憲 法 社 会 人 類 学 文 化 学	4 2 2					
	自然分野	生 物 学 地 理 学 心 理 学 情 報 科 学 概 論 家 庭 科 学	2 2 2 2 2			1 科目 2 単位を選択必修		
外 国 語 科 目	英 語 I ド イ ツ 語 I フ ラ ン ス 語 I ス ペ イ ン 語 I	英 語 II	2	英 語 II	2	・ 1 年次：英語と入学手続の際に選択した外国語の 2 科目 4 単位必修 ・ 2 年次：1 年次で履修の 2 カ国語のうちいずれか 1 科目 2 単位必修	6	
		ド イ ツ 語 II	2	ド イ ツ 語 II	2			
		フ ラ ン ス 語 II	2	フ ラ ン ス 語 II	2			
		ス ペ イ ン 語 II	2	ス ペ イ ン 語 II	2			
保 育 科 目	実技 講義	体 育 実 技	1			2 科目 3 単位必修	3	
		保 健 体 育 理 論	2					
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	英 文 講 読 I	2	英 文 講 読 II	2	11 科目 32 単位必修	32	
		英 英 語 音 声 学	4	英 文 法 論	4			
		オ ー ラ ル ・ イ ン グ リ ッ シ ュ I	2	英 作 文	2			
		英 米 文 学 概 論	4	英 文 学 史	4			
		英 英 語 学 概 論	4	オ ー ラ ル ・ イ ン グ リ ッ シ ュ II	2			
		英 英 会 話 I	2					
	選 択 科 目	※	時 事 英 語	4	商 業 英 語	4	14 単位以上を選択必修 ※英語演習 I～VI の履修は、いずれか 1 科目 (4 単位) に限る。	14
			英 文 タ イ プ ラ イ テ ィ ン グ I	2	英 文 タ イ プ ラ イ テ ィ ン グ II	2		
			英 文 速 記	2	英 会 話 II	2		
			英 戯 曲 研 究	4	聖 書 研 究	4		
			米 文 学 演 習 I	4	米 文 学 演 習 II	4		
			ジャーナリズム研究	4	英 語 学 演 習	4		
			秘 書 概 論	4	作 品 作 家 研 究	4		
			異文化間コミュニケーション	4	同 時 通 訳 入 門	4		
英 語 演 習 I	4							
英 語 演 習 II	4							
英 語 演 習 III	4							
英 語 演 習 IV	4							
英 語 演 習 V	4							
英 語 演 習 VI	4							
年 次 別 履 修 科 目 数		17 科 目		15 科 目				

(注意) 61年度休講科目

英語演習 V・英語演習 VI

B・58年度以前入学生適用

年次・科目 ・単位 区分		1 年 次		2 年 次		履 修 方 法	卒業要件	
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		計	合計 単位
一般 教育 科目	人文 分野	宗 教 学 I 哲 学 文 倫 理 歴 史	2 2 2 2 2	宗 教 学 II	2	「宗教学 I・宗教学 II」の 2 科目を含めて 3 科目 6 単位を選択必修	12	
	社会 分野	法 学 憲 法 学 社 会 人 類 学	4 2		4 単位を選択必修 ※教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」(日本国憲法 2 単位を含む)を必修とする。			
	自然 分野	生 物 学 地 心 理 学 情 報 科 学 概 論 家 庭 科 学	2 2 2 2		1 科目 2 単位を選択必修			
外国語科目	必修 科目	英 語 I G 英 語 I R	2 2	英 語 II	2	1 年次 2 科目 4 単位, 2 年次 1 科目 2 単位計 3 科目 6 単位必修	6	卒業に 必要な 単位数 67 以上
	選択 科目	ド イ ツ 語 I フ ラ ン ス 語 I 中 国 語 I ス ペ イ ン 語 I	2 2 2 2	ド イ ツ 語 II フ ラ ン ス 語 II 中 国 語 II ス ペ イ ン 語 II	2 2 2 2	1 カ国語 1 年次 I, 2 年次 II の 2 科目 4 単位まで選択履修できるが, この場合の単位は卒業に必要な単位に含めることはできない。		
保育 健体 科目	実技 講義	体 育 実 技 保 健 体 育 理 論	1 2			2 科目 3 単位必修	3	
専門 教育 科目	必修 科目	英 文 講 読 I 英 語 音 声 学 オーラル・イングリ ッシュ I 英 米 文 学 概 論 英 語 学 概 論 英 会 話 I	2 4 2 4 4 2	英 文 講 読 II 英 文 法 論 英 作 文 英 文 学 史 オーラル・イングリ ッシュ II	2 4 2 4 2	11 科目 32 単位必修	32	
	選 択 科 目	時 事 英 語 英文タイプライティ ング I 英 文 速 記 戯 曲 研 究 米 文 学 演 習 I ジャーナリズム研究 秘 書 概 論 異文化間コミュニケ ーション ※ 英 語 演 習 I 英 語 演 習 II 英 語 演 習 III 英 語 演 習 IV 英 語 演 習 V 英 語 演 習 VI	4 2 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	商 業 英 語 英文タイプライティ ング II 英 会 話 II 聖 書 研 究 米 文 学 演 習 II 英 語 学 演 習 作 品 作 家 研 究 同 時 通 訳 入 門	4 2 2 4 4 4 4 4	14 単位以上を選択必修 ※英語演習 I～VI の履修は, いずれか 1 科目 (4 単位) に限る。	14	
年次別 履修科目数		17 科 目		15 科 目				

(注意) 61年度休講科目

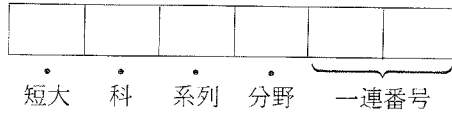
英語演習 V・英語演習 VI

※コード番号について

1. 授業科目コード設定の方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味をもたせている。

イ. 科目コード区分



ロ. 短大, 科番号は「学生番号について」で説明する。

ハ. 系列, 分野について

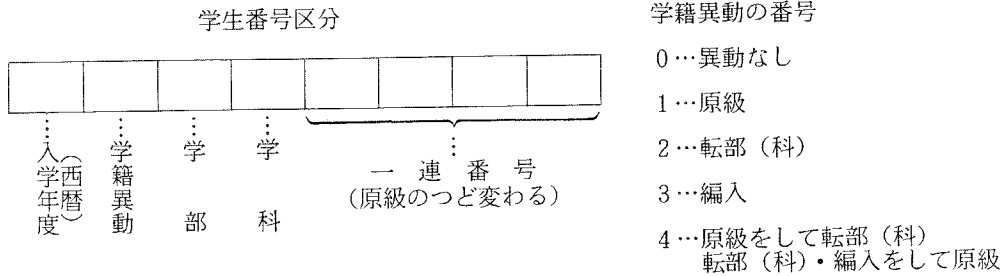
授業科目の区分	系 列	分 野
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1 (必修), 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
体 育 実 技		1
保健体育理論, 保健理論		2
専門教育科目	5	
必 修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
随 意 科 目	7	
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた



短期大学・科の番号表

	短期大学	科
短期大学	8	
国文科		1
英文科		2
放射線科		3

(例)

6	0	8	1	0012	(1986年度入学・短大國文科12番)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
一九八六年入学	学籍異動なし	短期大学	国文科	12番	

IV 履修科目の登録(履修届)

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し、届出ることにより通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目（制限科目数）は次表のとおりとする。

各科履修科目数		年 次			
		1 年 次	2 年 次	3 年 次	
国 文	新 履 修 科 目 数	17 科 目	15 科 目	/	
	課 程 ・ 講 座 登 録 者 科 目 数	20 科 目	20 科 目		
英 文	新 履 修 科 目 数	17 科 目	15 科 目		
	課 程 ・ 講 座 登 録 者 科 目 数	20 科 目	20 科 目		
放 射 線	新 履 修 科 目 数	24 科 目	18 科 目		18 科 目

イ. 再履修科目および随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語F」は、1年次生より履修することができ、上記表の制限外とする。

ハ. 国文・英文科で課程・講座科目を履修する場合。

認める……新履修制限科目数以内＋課程・講座科目数＝20科目

認めず……新履修制限科目数以上＋課程・講座科目数＝20科目

ニ. 放射線科で診療放射線技師国家試験受験資格取得希望者は卒業所要単位数（105単位）を取得すれば受験資格を得られる。

ホ. 放射線科2年次・3年次の病院実習の科目は制限外とする。

ヘ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する科以外の授業科目は登録できない。ただし国文・英文科は課程・講座取得に必要な科目は課程・講座科目として履修できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印をうけてから提出すること。

- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。
- ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

月 曜 日				
	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
一 時 限	ド イ ツ 語 I	812201	鈴 本	478
	~~~~~			
二 時 限	保健体育理論(前期)	814202	長 浜	993
	保健体育理論(後期)			622
~~~~~				
三 時 限	宗教学 I (後期)	810101	和田(謙)	978
~~~~~				
四 時 限	国語表現法	815508	大 室	151
	古典文学概説	815511	鈴 鹿	476
~~~~~				
五 時 限	体 育 実 技	814101	上山(智)	229
~~~~~				

正 しい 記 入 例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科目コード	担 任	担 任 コ ー ド
(1) 月	1		ド イ ツ 語 I	8:12:20:1	鈴 本	478
	2		保健体育理論(前期)	8:14:20:2	長 浜	993
	3		宗教学 I (後期)	8:10:10:1	和田(謙)	978
	4	○	国語表現法	8:15:50:8	大 室	151
	5		体 育 実 技	8:14:10:1	上山(智)	229

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は，必ず黒または青インクを使用し，捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ，上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は，再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため，下記の場合，登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード，担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合（例，0と6・1と7）
  - ニ. その他，不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は，時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において，必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し，紛失ないように保管すること。

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続きを経て履修登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・主題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### A. 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### B. 再試験

定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

(受験料は1科目500円)

(注意) イ. 体育実技の追・再試験は行わない。

- ロ. 前期終了科目の追・再試験は9月下旬~10月上旬、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも年度内に実施する。

### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日、時、試験場(教場)で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。

- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部、学科、学生番号、氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。

## 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
 なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験の成績評価は良（70点）以下とする。

## 6. 試験時間

定期試験実施時間(前期・後期とも)	
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10

追(再)試験実施時間(前期)	
1時限 16:10～17:00	
2時限 17:10～18:00	

追(再)試験実施時間(後期)	
1時限 9:30～10:20	
2時限 10:50～11:40	
3時限 13:00～13:50	
4時限 14:10～15:00	
5時限 15:20～16:10	

試験実施規程（抜萃）が掲載されている（P.27）ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得単位数が基準単位数に達しない場合は原級とし、同一学年に留め置くものとする。

### 修得単位基準（単位は卒業所要単位のうちとする）

#### A 国文科・英文科

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、修得単位数が25単位以上。
- ロ. 修得単位数が24単位以下は原級留置とする。

#### B 放射線科

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、1年次必修科目42単位のうち修得単位数が33単位以上。ただし、1年次の専門必修科目25単位のうち18単位以上を含むものとする。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、病院実習を除いた1・2年次必修科目74単位のうち修得単位数が62単位以上。ただし、1年次の専門必修科目25単位を含むものとする。
- ハ. 修得単位数が上記の基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

進級規程が（P.29）掲載されているので参照のこと。

## VII クラス制およびクラス主任

- イ. 各年次，科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり，学生の学習指導，生活相談等に当たっているから，これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## VIII 教職課程・資格講座

短大（国文科・英文科）で開講されている資格取得のための課程・講座名は教職課程及び学校図書館司書教諭の1課程1講座である。教職課程は，教員資格取得のためのもので，本学に於いて教職課程の所要単位を修得したのものには，中学校教諭免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭講座は，学校教育とならんで重要な公立学校図書館の専門職員となる有資格者を養成するものである。

課程・講座の履修希望者は入学年次の4月に課程・講座科目履修の登録を行ってもらおう。オリエンテーションのときに「教職課程・資格講座の履修要項」を配布し履修等の説明を行う。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

### ○開講されている・課程

課程・講座名	
教 職 課 程	1年次より
学校図書館司書教諭講座	1年次より

課程・講座の履修は実習の関係上1年次から行うこと。また，実習ガイダンスは1年次の5月に行う。



## IX 診療放射線技師国家試験

### 受験資格の取得について

#### 1. 診療放射線技師の免許

免許取得は毎年2回厚生大臣の行う試験に合格しなければならない（官報告示）。

#### 2. 受験資格

短大放射線科において卒業に必要な単位を取得すること。

## X 事務取扱いについて

#### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑応答については成績発表後3日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。  
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

#### 2. 授業時間について

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

#### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

#### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は教務部

⑦番窓口申し出てその指示を受けること。

ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在、国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は、全面休講とする。

## 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また学生個人に対する伝達事項も掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

## 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定，休講，授業，学籍，試験，成績，その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## 7. 編入学希望の学生へ

国文科・英文科の学生で卒業後、文学部国文学科・英米文学科への編入学を希望するものは、窓口にて相談されたい。

# XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種	類	要	領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届書	単位履修届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。		所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠試届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)		所定用紙あり	不要	不要	⑨
	改氏名届	変更後1週間以内に届け出ること。		所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。		所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。		所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。		所定用紙あり	要	不要	⑤
	死亡届			所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願書	休学願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。		所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復学願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。		所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退学願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。		所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤

## XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 (英文証明書) (1通 300円)
成績証明書		
卒業証明書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
在籍証明書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	無 料
人物考査書	就職部	
健康診断証明書	学生部③番	
在学証明書	学生部②番	
学割		
通学証明書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

### （目 的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。

- (2) 授業料その他の学費を納入していること。
2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
  3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験届及び追試験受験願を提出し許可を受けなければならない。
  4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

1. この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

# 進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和60年12月20日改正

## (目 的)

第1条 この規程は、駒沢短期大学学則第10条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(国文科及び英文科の進級基準単位数)

第2条 国文科及び英文科の学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち25単位以上を修得していなければならない。

## 第3条 削 除

(放射線科の進級基準単位数)

第4条 放射線科の学生が上級学年に進級するときは、次の単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、1年次必修科目42単位のうち、専門必修科目18単位以上を含む33単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、病院実習を除く1・2年次必修科目74単位のうち、1年次専門必修科目25単位を含む62単位以上修得していること。

(仏教科の進級基準単位数)

第5条 仏教科(夜間)の学生が上級学年に進級するときは、第2条の規定に準拠するものとする。

(原級)

第6条 修得単位数の合計が、進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

## 附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。





## 講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(34)
保健体育科目.....	(38)
随意科目(共通).....	(39)
国文科.....	(40)
英文科.....	(48)
放射線科.....	(56)
教職および資格講座.....	(66)



## 一般教育科目（共通）

### 人 文 分 野

宗 教 学 I (国) (和田 謙寿) .....	34
宗 教 学 I (英) (松田 文雄) .....	34
宗 教 学 I (放) (新井 勝龍) .....	34
宗 教 学 II (国) (鏡島 元隆) .....	34
宗 教 学 II (英) (鈴木 格禪) .....	34
宗 教 学 II (放) (新井 勝龍) .....	34
哲 学 (国・英) (國嶋 一則) .....	34
倫 理 学 (国・英・放) (國嶋 一則) .....	35
文 学 (国) (安藤 幸輔) .....	35
文 学 (英) (熊崎 久子) .....	35
歴 史 学 (国・英) (山口 一之) .....	35

### 社 会 分 野

法 学 憲 法 (国) (浅古 弘) .....	35
法 学 憲 法 (英) (畑尻 剛) .....	35
法 学 (放) (山田 泰彦) .....	35
社 会 学 (国・英・放) (橋爪 敏) .....	36
文化人類学 (国・英) (佐藤 憲昭) .....	36
心 理 学 (放) (篠原 英壽) .....	36

### 自 然 分 野

地 学 (国・英) (高木 久) .....	36
家 庭 科 学 (国・英) (田島 隆) .....	36
心 理 学 (国・英) (篠原 英壽) .....	36
情 報 科 学 概 論 (国・英) (杉田 徹) .....	37
生 物 学 (国・英) (清水 善和) .....	37
一 般 生 物 学 (放) (清水 善和) .....	37
一 般 数 学 (放) (清水 忠良) .....	37
一 般 物 理 学 (放) (清水 忠良) .....	37
一 般 化 学 (放) (田島 隆) .....	37

## 保 健 体 育 科 目

保 健 理 論 (放) (大志摩 毅) .....	38
---------------------------	----

## 随 意 科 目 ( 共 通 )

英 会 話 II (J.ウェルズ・J.G.ギャリソン T.J.コーガン・P.A.ベンディネリィ) .....	39
英 語 LL II (T.J.コーガン・見上 晃) .....	39
日 本 語 F (初級) (留学生対象) (大塚 純子) .....	39
日 本 語 F (中級) (留学生対象) (杉山 秀子) .....	39

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗教学 I (国)

和田謙寿

はじめに世界の三大宗教の概略、宗教の本質などについてを述べ、次いで、仏教の本質、仏教発生当時の社会的背景、四諦八正道、十二因縁、四法印などの基本問題更に、印度、中国、日本への仏教の伝来過程を文化史、民族学的な立場を加味して講述する。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会発行）¥ 2,900

### 宗教学 I (英)

松田文雄

人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の学問的領域その研究方法、宗教の起原論、宗教の分類等について概説し、さらに史上にあらわれた宗教現象、特に世界宗教（Universal Religion）といわれる仏教・キリスト教・イスラーム教等について各説する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I (放)

新井勝龍

仏教・禅が東洋思想の精髓として、世界思想の中に如何なる位置をしめているかについて考察する。

〔教科書〕 ノート

### 宗教学 II (国)

鏡島元隆

前半と後半に分け、前半に於てはインド・中国・日本の禅の歴史を述べ、後半においては禅の思想を人間観・存在観等について述べ、現代における禅の意義について述べたい。

### 宗教学 II (英)

鈴木格禅

仏教ないし禅の歴史や伝統を軸にしなが、できるだけ広く、且つ具体的な問題をえらび、これを「人間の学」として、共に考え一緒に学んでゆきたい。

但し、本学年度に限り、前期の授業は後期授業期間内に、併行して実施せられるから注意すること。

〔教科書〕 本学禅研究室編『宗教学 II』（更生社）  
¥ 1,950

### 宗教学 II (放)

新井勝龍

中国から日本に亘る禅の展開過程において、禅の個人観・社会観更に禅の実践を中心として、現在の自己自身における絶対的価値実現の道を探っていきたい。

〔教科書〕 ノート

〔参考書〕 田村芳朗『日本仏教史入門』

### 哲学 (国・英)

國嶋一則

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

倫 理 学 (国・英・放)

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の獲得に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学 (国)

安 藤 幸 輔

近代以降の代表的詩人の代表的詩作品を扱いたい。即ち藤村、泣菫、有明、鉄幹、晶子、光太郎、朔太郎、犀星、春夫、賢治、白秋、四郎、道造、達治らから、現代までのものを対象とする。

歌人もこれに加える。即ち、啄木、牧水、勇、茂吉らから現代に至るまでのものとする。

これを要するに、〈韻文学〉の代表的作家と作品を、時代を追って考えるということになろうか。

〔教科書〕 追って指示する。

〔参考書〕 『現代詩の鑑賞』上・下（新潮文庫）  
『日本の詩歌』（中公文庫）

文 学 (英)

熊 崎 久 子

東欧の文学を中心に世界文学の流れを、政治・思想・宗教の変遷等を背景に概観する。

〔教科書〕 教場で説明します。

歴 史 学 (国・英)

山 口 一 之

この科目は半期の授業であるので、時間数を考えながら、日本の近代史の問題を選んで講義するつもりです。

教科書は特別のものを使いません。

社 会 分 野

法 学 憲 法 (国)

浅 古 弘

法津が私たちの日常生活と深くかかわっていること、法は社会の常識とかけはなれたものでないこと、そして法は広くすべての人たちの幸福のためにあるということを理解してもらうために、私たちの身近な問題に例をもとめながら、法の基礎的な諸問題を説明し、あわせて社会の基本的ルールを定めた憲法についても話したい。講義には『六法』（法規集）の携帯が望ましい。

〔教科書〕 湯浅道男、山下平八朗、岸昭道編著  
『法学入門』（成文堂）

〔参考書〕 『岩波コンパクト六法』（岩波書店）、  
『ポケット六法』（有斐閣）

法 学 憲 法 (英)

畑 尻 剛

本講座は、日本国憲法の保障する基本的人権を二つの方向から考える。一つは、その歴史的考察である。先人たちの努力の軌跡をたどり、人権思想の歴史的背景を知ることが、人権理解に不可欠である。もう一つは、その現実的考察である。人権規定が現代社会において具体的にどのように機能しているのかを知ることは、重要なことである。このような考察によって、「われわれにとって法とは何か」ということも、おのずから明らかとなる。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示

法 学 (放)

山 田 泰 彦

現代生活は、法の網の目の中で営まれていってもよい。法は、我々の生活の各場面に浸透している。本講義では、我々の生活の各場面において法が我々の生活をどのようにとらえているかをみることにしたい。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 社会学(国・英・放)

橋爪 敏

“社会現象”とは、結局のところ人間関係の問題であると言える。人と人が相互に作用し、その積み重ねりとして、われわれの前に展開をする様々な“社会現象”が生じてくるのである。家族、学校、会社、労働組合、政党、病院など、そして地域社会やひいては全体社会と呼ばれるような人間関係のネットワークがあらわれてくる。「社会学」とは、こうした“社会現象”をその主たる研究対象とする学問であって、高等学校までの「社会科」とはかなり性格を異にしている。そこで、本講義においては、このような社会的アプローチの基礎を、テキスト等を参照しながら理解をしていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『生活の社会学』  
(学文社)

〔参考書〕 高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房)

## 文化人類学(国・英)

佐藤 憲昭

文化人類学の主要テーマのうち、まず文化の性格と機能・婚姻・家族・社会組織・文化変化などをとりあげて具体的に考察し、つぎに呪術・宗教的な観念や行動について、他の文化諸要素と関連させながら考えてみたい。

〔参考書〕 佐々木宏幹『憑霊とシャーマン 宗教人類学ノート』(東大出版会)

## 心理学(放)

篠原 英壽

人とは何か、という問題を心理学的立場からアプローチし、解説してゆきたい。しかしこの講座は半期の開講科目であるため、視点を人格心理学及び臨床心理学に置き、上記の問題を扱ってゆく。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版) ¥ 1,500

## 自然分野

### 地学(国・英)

高木 久

地学は、地球に関して広い範囲にわたる自然界の現象をとり扱う地球科学である。

地学をとおして、自然を科学的に追及する姿勢を把えることは、更には、人文界の諸問題を正しく認識する道にも通じる。

本講は、動的地球観の上に立って地震を分析し、日常生活の中に科学的認識と自然への正しい対応を高める。

〔教科書〕 上田誠也著『新しい地球観』(岩波新書)

### 家庭科学(国・英)

田島 隆

文科系学生のために、衣食住という物質文明にどう対処したらよいかを考える糸口にする時間としたい。

1. プロローグ (科学的なものの考え方)
2. ダイヤモンドに目が眩む (分子の構造)
3. ヤカンとフライパンの話 (金属の性質)
4. カセットテープの音楽 (家庭電化製品)
5. オナラは燃えるだろうか (有機化合物)
6. ヴィーナスのお臍 (生活の中の計測学)
7. 上手な洗濯法 (界面活性と洗浄の理論)
8. 美容食で美人になれるか (健康と食物)
9. おふくろの味・日本の味 (調理と味覚)
10. エピローグ (横光利一の自然科学観)

### 心理学(国・英)

篠原 英壽

人とは何か、という問題を心理学的立場からアプローチし、解説してゆきたい。しかしこの講座は半期の開講科目であるため、視点を人格心理学及び臨床心理学に置き、上記の問題を扱ってゆく。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版) ¥ 1,500

















































































